



新発田市立東中学校だより

教育目標「進んではげむ、心ゆたかな生徒」

令和5年9月7日

第8号

☎ 0254-22-3824

📠 0254-26-3543

みなさん、たくさんの応援、
本当にありがとうございました！！

躍進する東中

校長 森谷 優子



この夏休みは、東中生が活躍する嬉しいニュースが、新聞紙上を飾りました。さんの柔道全国大会での5位入賞、さんのわたしの主張大会三市北蒲原地区大会最優秀賞です。

まず、この夏は、柔道部の大躍進に、大いに盛り上がりました。さん、さん、さん、さんの4人は、個人戦で揃って県大会で優勝し、北信越大会、全国大会へ出場しました。私たちにとって、北信越大会、全国大会という舞台にあがることも夢のようですが、さらにそこでも大きな成果をあげました。

7月の県大会の報告会で全校生徒には話しましたが、県大会の柔道会場で、私は他校の先生に声をかけられ、大変ほめられました。「東中の柔道部はすごいです。練習会場へ入った人なら誰もが感じると思いますが、東中の選手は、練習をさせられているのではなく、生徒が自ら主体的に練習しているのです。他とは、練習の様子が違うのです。練習会場のナンバー1は東中だと思います。」「特に主将の高地くんは、すばらしい！それに呼応するように盛り立てるチームメイトもすばらしい！練習に挑む高地くんの存在が、部員の士気をあげ、練習に真剣にさせる。」

お話を聞きながら、私は、5月にご講演いただいた開志国際高校の富樫先生を思い出していました。**どれだけの準備をして、日常生活というオフボールをどのように過ごしてきたのか。**※
みなさんの努力に敬意を表し、心から賞賛を贈ります。



そして、新発田市、阿賀野市、胎内市、聖籠町のすべての中学生数千人が参加して行われた「わたしの主張大会」で、さんは「見た目って中身？」という見事な主張で頂点に立ちました。アトピー性皮膚炎を患った自分自身の経験から、周囲の偏見や誤解に心を痛めたこと、それを救ってくれたのは、今の東中の柔道部の仲間であったことを述べ、会場に大きな感動を呼びました。

さんは、この度の県大会の柔道個人戦で、見事、5位入賞を果たしています。前述した練習会場ナンバー1と言われた東中のメンバーに他なりません。9月には巻文化会館で県大会が行われます。ますますの健闘を期待しています

※ 例えば、歩いて新発田のサンビレッジまで行くのと富士山まで歩いて行くのでは、**する準備が違う**。だから、まずは、目標設定が大切である。バスケットボールの試合では、ボールを持っている時は大事だけれど、**それ以上に大事なのがボールを持っていない時の動きだ**。考えてみると、バスケットボールをしていない時、学校生活や家庭での生活など、つまり、日常生活は、**すべてオフボール（試合でボールをもっていない時）**であると言える。

(「富樫先生のご講演より」学校だより 第3号抜粋)

北信越大会 (石川県) 8/3. 4



まずは県大会優勝して全国大会に出れたことがとても嬉しいです。初の北信越、全国大会でとても緊張したがとても良い経験になりました。
中川 陽王

<柔道>
男子個人50kg級
一回戦惜敗
男子個人55kg級
優勝
女子個人48kg級
3位
女子個人70kg超級
5位

全国大会 (徳島県)

<柔道>

男子個人50kg級
一回戦惜敗
男子個人55kg級
5位
女子個人48kg級
一回戦惜敗
女子個人70kg超級
一回戦惜敗



全国大会に出場して、他県の選手やたくさんの試合を見て、とてもいい経験になりました。この努力をこれからの勉強に活かしていけるようがんばります。



全国大会では、県大会のように動くことができず全国の厳しさを知るよい経験になった。何より、3人の3年生と上位大会に進み、最後に笑顔で終われたことが嬉しかった。

わたしの主張 8/23 三市北蒲原地区大会

3年
最優秀賞「見た目って中身？」

大会で自分の発表をしてることができたし、県大会へ進むこともできたのでよかったです。私の主張大会は県大会よりも先の大会がまだまだあるのでそこに進んでもいい成績を残せるように頑張りたいです。

わたしの主張 三市北蒲原地区大会



広島平和記念式典 8/5. 6. 7

生徒会副会長 さん(3年)が、広島市の平和記念式典へ、同じく副会長の さん(3年)が、市主催の長岡の平和学習へ、それぞれ東中学校の代表として参加しました。



長岡市平和学習 8/9



みなさんは、長岡に空襲があったことを知っていましたか。1945年8月1日22時30分ごろ、長岡の町に大量の焼夷弾が降り注ぎました。1時間40分に及ぶ空襲で、約1500人の尊い命が奪われました。

では、なぜ長岡に空襲がされたのでしょうか。アメリカ軍は当時、人口の多い都市から順番に空襲をしていました。しかし、新潟市には当初原爆を落とす予定だったため、県内で2番目に人口が多い長岡に空襲をしました。もし、終戦が少し遅ければ、新潟市にも原爆が落とされていたかもしれません。長岡市は、真珠湾攻撃の指揮をとった山本五十六の出身地だから空襲がされたという話もありますが、その話は間違っているそうです。また、私はこの戦災資料館で、実際に空襲を体験した方から貴重な話を聞いてきました。その日の夜、寝ていると、空襲警報が鳴ったそうです。この頃は毎日のようにアメリカ軍の飛行機が飛んできていて、空襲警報が鳴るのも珍しくはなかったそうですが、次の瞬間、いつもとは違うサイレンに変わり、辺り一面火の海になったそうです。家族みんなで火から必死に逃げ、やっとの思いで神社にたどりついたそうです。その方とその方の母親、妹は井戸に逃げてなんとか助かったそうです。しかし、境内のほうに逃げた弟と父親は、亡くなってしまったそうです。その方は話を終えると、目に涙を浮かべていました。戦争は、何もかもを奪ってしまう、本当に悲しいものです。絶対にもう二度と起こしてはならないという一人一人の強い思いがとても大切だと私は強く感じました。

しばた平和の集い 8/11



市学習センターで発表する秋山さんと応援参加の生徒会書記局

8月6日、8時15分に1発の原子爆弾が投下され、多くの人々が亡くなりました。生き残った人々にも今もなお、身体と心に深い傷を与えたあの日から78年経った広島に行き、平和記念式典に参列しました。

今年は歴代過去最多の111カ国の代表者が訪れ、のべ5万人が参列しました。広島市長や岸田総理大臣、遺族代表の方の言葉を聞いて強く胸を打たれました。中でも、広島市内の小学生2人による、平和への誓いが特に印象に残りました。平和への願いを世界に向けて堂々と語っている姿に感動しました。また、記念式典には、日本人だけではなく、海外の方も多く参列していました。世界中の多くの人々が被爆地である広島を訪れ、世界の平和を願っていることに感動し、平和の尊さを感じることができました。

また、その前日に平和記念資料館を訪問しました。実際に資料館

を訪れてこれまで抱いていた原爆への思いが覆されました。言葉に表せないほど悲惨な写真や絵、激しい閃光により、焼け爛れた服や三輪車、そして、私が知らなかった被爆者たちの言葉の数々に衝撃を受けました。78年前の日本で本当に起こったことなのだ改めて実感しました。世界では、今も紛争が続いています。平和への誓いで、「身近なところにもたくさん平和がある」、「みんなの笑顔のために自分の力を使う」という言葉がありました。紛争を続けている人たちは、みんな笑顔のために自分の力を使っているのでしょうか。私たちにも平和のためにできることがあります。私は身近な平和を築き続けていくためにも今回の事業を通して学んだことを活かし、自分から行動していきたいです。

見た目って中身？

新発田市立東中学校 3年

「べたべたして気持ち悪い。」

当時まだ小学生だった私の心は、この言葉に深く傷つけられた。しかし、それ以上に、疑問に思ったことがあった。なぜ、自分は他の人とこんなに違うのだろう……。

私は、物心つく前から、アトピー性皮膚炎を患っている。いわゆるアトピーと言われるものだ。これは、皮膚が炎症を起こす病気で、体がかゆくなったりむずむずしたりする症状が出る。そして、体を掻くと、炎症がひどくなり、血やぶつぶつとした湿疹が出てしまう。私はその中でも重症の方だった。

いつもいつも体を掻いてばかりで、体のどこを見ても掻き跡が残っていた。安心して眠ることもできず、寝る直前や、眠っている時さえ、体のどこかを掻いていた。病院では血液検査の結果を見た医師が、「見たことがない」というほどの値をたたき出した。私の人生は、アトピーによって大きく変えられていったのだ。

しかし、そんな状況にあった私でも、できることは周りの人たちと何も変わらなかった。学校で皆と同じように勉強ができた。体育で、皆と同じように縄跳びや跳び箱ができた。走る。遊ぶ。話す。書く。読書する。勉強する。部活をする。この他にも、たくさんことができる。アトピーによって苦しい思いをしたが、何かができなくなった訳ではないのだ。今の私の生活があるのは、病院で私を診てくれる先生、そして医療の発展のおかげだ。数多くの薬のおかげで、昔に比べると病状がとても改善している。私の病気を治そうとして下さっている先生や、薬の数々には感謝してもしきれない。

しかし、治療を続ける中で、こんな言葉を掛けられることがあった。

「うつるから触らないで。」

この言葉で、相手はアトピーを拒否したのだろう。しかし、私は自分自身の存在そのものを拒否された気がしたのだ。

自分がどれだけ頑張っても、うつると言われて一蹴されてしまうのだろうか。私に関わってくれる先生方の努力も否定されてしまうのだろうか。

アトピーはうつる病気ではないのに。無知や誤解から来る言葉が、病気に悩む人に大きなショックを与えている現状がある。

だからこそ、私は伝えたい。人を見た目だけで決めつけないでほしいと。確かに、重度のアトピー患者の外見には傷口があり、赤くなったり、ぶつぶつしたりしているかもしれない。それを、気持ち悪い、関わりたくないと思う人もいるのかもしれない。しかし、それはその人の中身だろうか。その人の性格は、見た目から予想ができるだろうか。好きな食べ物は、趣味は、得意なことは、見た目から予想できるだろうか。答えは NO だ。見た目や第一印象で、その人の全ては分からない。これは、アトピー以外の病気、さらに病気以外にも通じることだ。

私は今、中学校の部活動で柔道をしている。練習は厳しく、辛い。努力がいつも報われるとは限らず、逃げ出したくなることもある。しかし、あきらめずに練習を続けた結果、県大会の切符を掴むことができた。なによりも、仲間を手に入れた。柔道では、相手の体や衣服に触れて技をかける。柔道をとおして出会った仲間たちは、私に触れることを少しもためらわない。下らないことで笑い合い、試合や練習では、本気でぶつかる。見た目など関係なく私自身を見てくれるかけがえのない仲間だ。この仲間たちと努力が、私に自信をくれた。だからこそ、今は夢に向かって精一杯進むことができる。

私の夢は、皮膚科医になることだ。私を助けてくれた先生のように、自分と同じ状況に置かれている人を、治療という形で支えていきたい。そして、私が思い描く未来の社会を実現させたい。それは、見た目だけで人を決めつけることなく、人の中身を見る社会だ。そのために、まずは私自身が、力一杯胸を張って生きたい。そして、私の生きる姿で伝えたい。人の価値は、見た目では決まらないのだと。